

令和7年度  
奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター調査研究評価委員会  
(概要)

1 開催日時 令和8年3月13日(金) 13時40分～16時30分

2 開催場所 奈良県保健研究センター 1階 会議室

3 出席者

山田委員長、川崎委員、今北委員、布施委員、三田村委員(書面審議)  
榮井所長、城山所長、稲田副所長、田中課長、安藤統括主任研究員、  
田邊統括主任研究員、村上統括主任研究員、吉田統括主任研究員、  
井上統括主任研究員、島主任研究員、足立主任技師、山本主任技師、  
久保主任研究員、平山主任主事、門林総括研究員、西山指導研究員、  
その他両センター職員

4 議題

(1)調査研究課題結果報告

- ①茶における残留農薬一斉試験法の確立と残留実態の把握
- ②下水処理場流入水におけるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)の実態調査
- ③全ゲノム解析による下水中アデノウイルス3型と臨床分離株の相同性解析
- ④奈良県における大気中の含酸素化合物(OVOC)の実態調査
- ⑤自動同定定量システム(AIQS)を活用した異常水質原因特定体制の構築

(2)総評

5 公開・非公開の別

議題(1)、(2):非公開

(理由:審議会等の会議の公開に関する指針3のイに該当)

6 議事内容

(1)調査研究課題結果報告

5題の研究課題結果について各主任研究者から報告、及び各委員からの  
質疑応答があった。

(2)総評

5題の研究課題結果の報告に対する各委員からの総評があった。

- ・高いレベルの研究が行われており、学術的にも論文化できる内容であると感じた。
- ・地域や行政のニーズに合った研究が適切に行われていると感じる。
- ・装置・機器が充実しており、更新も進んでいて、すばらしいデータが得られていると感じた。
- ・社会貢献を最終目標とした研究が多く、その点が強く伝わってきた。
- ・少し視点を変えたりデータを見直したりすることで、より学術研究として価値の高い成果になると考える。
- ・成果は、学術論文として発表していくことが望ましいと感じる。